The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	彙報
Author(s)	
Citation	懐徳. 1968, 39, p. 95-96
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90465
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

彙報

（懷德堂記念會）

○記念祭典　昭和四十二年十月十四日（土）北濱本會（適塾内）に於て、午後一時より記念祭典執行。同一時四十分より記念講演會を開き、大阪大學助教授黑田俊雄先生の「日本封建社會の特質」と題する講演があった。

○秋季講座十月十六日（月）より二十一日（土）まで、本會及び大阪大學文學部主催、朝日新聞社後援で、大阪大學松下會館四階會議室に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第三十四回開講、聽講者延三百名。

演題と講師

大阪の心學	近大教授	竹中靖一先生
山片蟠桃	關大教授	有坂隆道先生
大鹽中齋	大阪城天守閣主任	岡本良一先生
洎園書院について	大谷大學講師	水田紀久先生
懷德堂と廣田剛立	中井家後裔	羽倉敬尙先生
廣田剛立の解剖學	日本醫史學會長	小川鼎三先生
懷德堂座談會		出席者全員

○十一月九日　時野谷勝氏評議員就任。

○事業運營委員石濱純太郎氏（阪大名譽教授・文學博士）昭和四十三年二月十一日大阪府立病院で、腦軟化症のため逝去。先生は昭和二十五年十一月以來、本會の事業の運營に盡力された。昭和二十九年十一月西夏語の研究で、大阪府から「なにわ賞」を受けられた。謹んで哀悼の意を表します。

○昭和四十三年三月三十一日、理事澤潟久敬氏退任。

○四月一日、田中健二氏（阪大文學部長）理事就任。

○春季講座　五月二十七日（月）より六月一日（土）まで、本會及び大阪大學文學部主催、朝日新聞社後援で、大阪大學松下會館四階會議室に於て、毎日午後六時半より八時まで、懷德堂講座第三十五回開講、聽講者延三百六十名。

演題と講師

論語に見える子貢	阪大教授	木村英一先生
春秋について	關大教授	竹内照夫先生
莊子について	阪大助手	野村茂夫先生
漢字と文化	京大教授	平岡武夫先生
日本に於ける佛教と古典文藝	京都府大教授	小田良弼先生
文心雕龍	愛知學大教授	興膳　宏先生

○評議員大原總一郎氏（倉敷レイヨン社長・經濟學博士）七月二十七日直腸がんのため、東京國立がんセンターで逝去。謹んで哀悼の意を表します。

（堂友會記事）

四十二年十月十四日　懷德堂記念會恒祭適塾にて擧行され、會員多數參列。

四十二年十月二十八日　會員井口金次郎氏死去。

同氏も多年聽講生として講座に參加したが、高潔なる風格と篤實な溫情の人格を以て後進を育成されて居ったのに老齡により死亡されたのである。哀悼にたえません。

四十二年十月二十九日　秋季見學會を南山城の蟹滿寺及觀音寺で行ない、國寶彫像を見學した。この日天氣晴朗、空氣靜澄、參加者市街地の沈滯氣分を一掃した。講師、關西學院大學齋藤孝先生。參加者　三十名。

四十三年一月二十一日　松下保健センターにて委員會開催。席上大阪大學教授木村英一先生に本會會長を委囑して御承諾を得た。ついで小島安之助、舟木謙一郎、富岡良彰、本田弘、澤美枝諸氏に委員を依頼した。それにより隔月第一金曜日に委員會を開くことにした。

四月二十一日　春季見學會を丹波山國のさとにある大雄山常照皇寺に催した。同寺は光嚴法皇の兆域なる山國御陵のある清境であって折柄、九重及左近の櫻が滿開であったので參加者一同滿足の樣子であった。講師は大阪大學教授梅渓昇先生。

參加者　四十五名

四月十二日　會員山本檜信氏より金壹萬圓也の寄附を頂いた。好意を感謝すると同時に維持會員に推選した。

七月十三日、十四日　臨時見學會を豫ての熱望により、瀬戸田の耕三寺の大三島の大山祇神社見學會を催した。先ず十三日朝九時發一時尾道に着。淨土寺や千光寺公園の文學の小徑などを見學、夜瀬戸田の住之江旅館に泊。十四日西日光という耕三寺を見物、后、大三島の大山祇神社を正式參拜して國寶館の鎧、刀劍などの國寶、重文などを見學して瀬戸内の靜かな風光を見て歸阪した。

講師　甲子園大學教授　田中巽先生。

參加者　三十名。

會員動靜

死　亡　井口金次郎氏

新入會員　高内德雄氏　有光友逸氏　水田紀久氏　井口美智子氏　吉岡辰榮氏　益邑健氏　橋本宗平氏

退會者　森元直雄氏　木村春之氏　中野昌子氏